

国土交通省 清水港湾事務所 広報紙

# みなとしみず

SINCE 1990.6 No. 147

～清水港をはじめ静岡県内の「みなと」の旬な情報をお届けします！～

発行



国土交通省 中部地方整備局  
清水港湾事務所



静岡県清水区日の出町7番2号

TEL 054-352-4146（代表）

事務所HP <http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

明けましておめでとうございます。日頃より、国土交通行政、港湾行政にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

当事務所は、昨年、開設から100周年の節目を迎え、本年は101年目の新たなスタートとなります。次の100年を見据えて、気持ちも新たに静岡のみなとづくりを進めて参ります。

本年は、アフターコロナを見据えた地域経済の活性化に向けて、岸壁の整備・改良など港湾の機能強化や、農産物の輸出など港湾の利用促進に引き続き取り組みます。また、津波・高潮・高波などの大規模自然災害への対応に向けて、港湾施設の強靱化や海路を活用した防災ネットワークの構築を進めます。本年もご指導、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

清水港湾事務所長 早川 佑介

## 清水港 新興津岸壁延伸工事の着工式典を開催しました

12月4日に、清水港新興津岸壁延伸工事着工式典を開催しました。当日は、静岡県川勝知事、静岡市田辺市長など多くの皆様にご出席いただきました。

現在、清水港新興津コンテナターミナルでは、コンテナ貨物やパルプ貨物の増加による岸壁の混雑や船舶の沖待ちなど、物流面の課題が顕在化しており、岸壁の延伸による機能強化が必要な状況です。

この岸壁延伸工事が完成すれば、コンテナ船・パルプ船の合計3隻が同時に着岸できるようになり、岸壁の混雑や延長不足の解消が図られます。清水港背後に立地する自動車産業、製紙産業等の競争力を強化し、地域経済の活性化に貢献できるよう、工事の早期完成を目指して取り組んで参ります。



着工式典（鍬入れ）



新興津岸壁延伸工事の概要

## 下田港を核とした地域活性化に向けて、 「みなとオアシス下田」が登録されました

1月14日に、下田市制施行50周年記念式典が開催され、あわせて「みなとオアシス下田」の登録証交付式が行われました。

国土交通省では、港を核として地域住民の交流や観光の振興に取り組むエリアを「みなとオアシス」として登録し、賑わいづくりを支援しています。

(令和4年1月14日時点で、全国152箇所登録)

みなとオアシス下田の中心施設である「開国下田みなと」は、下田市の観光・アウトドア・自然体験などの情報発信拠点であり、市の特産品販売所、レストラン、まちの自然や歴史等を紹介するミュージアムを併設しています。

その他構成施設の「まどが浜海遊公園」は、人工磯と足湯を備え、毎年5月の黒船祭では花火大会の会場となっています。

また、下田港は金目鯛の水揚げ量日本一を誇り、「伊豆大特産市」や「伊豆漁協水産まつり」などのイベントも開催されています。

今回の登録を踏まえ、清水港湾事務所においては、下田港を核とした賑わい創出や防災機能の向上等に取り組んでいきます。



「みなとオアシス下田」登録証交付式



開国下田みなと



伊豆大特産市

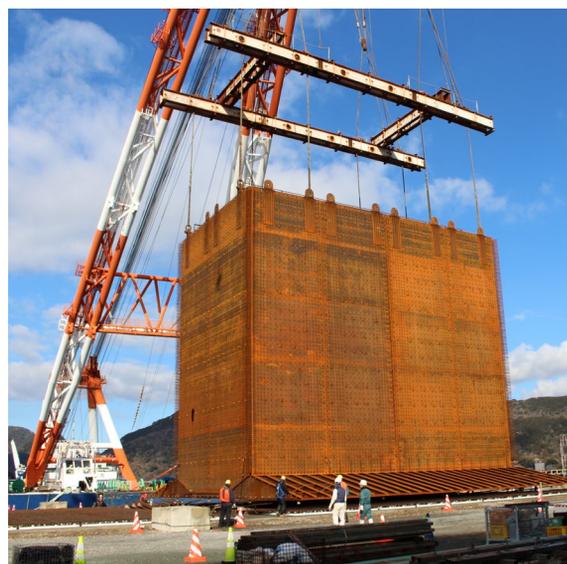
## 下田港で、防波堤の一部となる大型ケーソンを製作しています

現在、清水港湾事務所では、下田港で整備中の外防波堤の一部となる大型のケーソン（コンクリート等で出来た大きな箱）を製作しています。

ケーソンの大きさは、幅約20m、奥行き約11m、高さ約17.5mで、6階建てビルの高さに相当します。

下田港での大型ケーソンの製作は約9年ぶりで、愛媛県の工場で作られたケーソンの「鋼殻」を下田港まで船で運び、1月7日に陸上に揚げました。

今後、3月頃にかけて、鋼殻の周囲にコンクリートを打設し、ケーソンが完成します。その後、外防波堤の一部として設置予定です。



ケーソン鋼殻の陸揚げ作業（1月7日）

## 御前崎港の活性化に向けて、 「御前崎港の将来を考える勉強会」が開催されました

令和3年12月23日に、「御前崎港の将来を考える勉強会」が御前崎市役所で開催されました。

2回目の開催となった今回のテーマは、「港湾における脱炭素化」として、全国の主要港における取組の情報共有を行いました。意見交換では、10年～20年後の御前崎港の利活用イメージについて事務局（御前崎市・牧之原市）から提案があり、脱炭素への対応や、生涯学習施設の設置など、産業や人流・賑わいも含め多岐にわたり活発な議論が交わされました。

また、第1回勉強会（令和3年7月21日）における海洋環境保全の議論をきっかけとして当事務所等が実施した御前崎港久々生海岸のアマモ場保全の取組（清掃活動）についても報告されました。

当事務所では、勉強会における議論も踏まえ、静岡県、御前崎市、牧之原市及び関係者の皆様と協力し、御前崎港の更なる活性化に向けて取り組んでいきます。



勉強会の様子



御前崎港の将来利活用イメージ  
（事務局提案）

## 御前崎港において、二酸化炭素の吸収源となる アマモ場の保全活動（海岸清掃）を実施しました

御前崎港の久々生海岸には、静岡県準絶滅危惧種のコアマモが群生しています。アマモなどの海草や藻類が吸収する炭素は「ブルーカーボン」と呼ばれ、二酸化炭素の吸収源として近年注目されています。当事務所では、このアマモ場を保全するため、令和3年12月2日に、久々生海岸の清掃活動を実施しました。

清掃活動は、当事務所、御前崎港開港50周年記念事業実行委員会、御前崎港港湾建設工事安全協議会の共催で 約70名の関係者が参加し、流木、その他ゴミを含め67.5<sup>m</sup>（2tダンプトラック45台分）を撤去しました。

海岸清掃後は、御前崎の海がより豊かになることを願い、マダイの稚魚500匹を放流しました。



海岸清掃活動の様子



マダイの稚魚を放流

## 農産物の市場拡大に向け、清水港を高品質な農産物の輸出拠点に！ ～ 海上コンテナによる農産物鮮度保持試験を実施 ～

令和3年11月～12月に、海上輸送による農産物の輸出を促進するための実証試験として、海上コンテナによる農産物鮮度保持試験を実施しました。

この試験は、東南アジア等への海上輸送日数を想定し、冷蔵コンテナに農産物を30日間保存し、海外で販売可能な品質が確保されるかを確認するものです。

試験では、静岡・山梨・長野県の青果物20品目について、見た目や重さ、味などについて、10日、20日、31日経過後の変化を確認しました。

試験の結果、10日及び20日経過後については、全品目が集荷時と同等の品質を保持し、31日経過後は、18品目が販売可能な品質を保持していることが確認され、清水港から東南アジア等への農産物輸出が十分に可能であると実証されました。

当事務所では、1月に2回目の鮮度保持試験を実施する予定です。



鮮度保持試験の実施状況  
(海上コンテナへの農産物の積み込み)



農産物を詰めた海上コンテナを  
清水港新興津コンテナターミナルに蔵置



31日経過後の果物の食味試験



31日経過後の品質検査

## 清水港からの農産物の輸出促進に向けて、 静岡市中央卸売市場の冷蔵倉庫改良工事が始まりました

令和3年11月24日に、静岡市中央卸売市場冷蔵倉庫改良工事の着工式典が開催されました。この工事は、清水港からの農産物の輸出促進に向けて、農産物の集荷拠点である中央卸売市場の冷蔵倉庫を改良し、農産物のコールドチェーンを確保しつつ効率的に荷積みができる設備（ドックシェルター）を整備するもので、国土交通省も一部費用を支援します。

この施設は3月に完成・供用開始予定であり、静岡・山梨・長野県などの農産物の広域集荷及び輸出拠点としての利活用が期待されます。



着工式典  
(静岡市 田辺市長による挨拶)



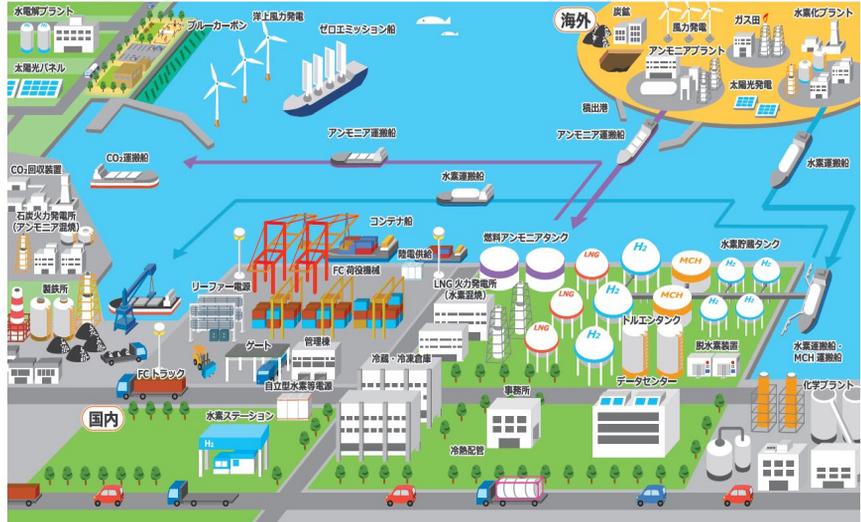
冷蔵倉庫の改良イメージ（ドックシェルターの整備）

## カーボンニュートラルの実現に向けて清水港が始動！

令和3年11月30日に、清水港カーボンニュートラルポート協議会（第1回）を開催しました。カーボンニュートラルポート（以下、「CNP」と略します）とは、物流や産業の拠点である港湾において、水素等の次世代エネルギーを活用する環境整備や、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化、臨海部産業との連携などを通じて、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすることを目指すものです。

本協議会では、清水港においてCNPを実現するために講じる方策やロードマップについて、官民一体となって検討を行っていきます。

第1回協議会では、CNPに関する国の施策や他港の取組状況、静岡県・静岡市における脱炭素化施策について関係者間で共有し、清水港におけるCNP実現に向けた方向性について意見交換を行いました。



カーボンニュートラルポートのイメージ

## 「清水港マグロまつり2021」にブースを出展しました ～ 防波堤の役割や効果をPR ～

令和3年12月4・5日に「みなとオアシスマぐろのまち清水」を会場として開催された「清水港マグロまつり2021」に、当事務所が出展し、防波堤の役割や効果を知っていただくための模型実験を行いました。あわせて、株式会社不動テトラ様のご協力により、ミニチュアテトラポッドの製作体験も行いました。

防波堤の模型実験では、防波堤が波から街を守ったり、港の中を静穏に保つ様子を、来場者の皆様にご覧いただきました。

ミニチュアテトラポッド製作では、型に好きな色で着色した石膏を流し、自分だけのオリジナルブロックづくりを体験していただきました。

当事務所のブースには合計約300名の皆様にお立ち寄りいただきました。多くの皆様のご来場、誠にありがとうございました。



防波堤模型による実験



ミニチュアテトラポッドの製作体験

## みなとの企業訪問 (株式会社 J-オイルミルズ 静岡事業所)

令和3年12月15日に、株式会社 J-オイルミルズ様のご厚意により「株式会社 J-オイルミルズ 静岡事業所」を見学させていただきました。

(株) J-オイルミルズは、食用油脂等の製造・販売を主たる業務としています。全国7工場(事業所)の内の1つである静岡事業所は、敷地面積約19万㎡を保有しており、1917年から創業を開始し、現在は、油脂、マーガリン、スターチなどを供給しています。

静岡事業所では、製品の原料は世界各国から8万トン級の穀物専用船によって週1回程度、清水港に運ばれています。主な原料は、アメリカ・ブラジル原産の大豆、カナダ・オーストラリア原産の菜種、アメリカ原産のとうもろこしです。

原料の穀物は、穀物専用船から事業所内の岸壁に設置されたアンローダー※により吸い上げられ、ベルトコンベアを介して原料サイロに貯蔵後、様々な工程を経て油脂等の製品が製造されます。植物油の製造工程の中で、精製された油を容器に充填・包装する作業を見学させていただき、徹底した衛生管理や品質管理が行われていることが分かりました。また、「清水港・みなと色彩計画」に基づき、事業所設備をアクアブルーやホワイトでカラーリングするなど、清水港の景観形成にも貢献しています。

最後になりますが、ご案内いただいた株式会社 J-オイルミルズ 静岡事業所の皆様には、この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

※ アンローダー：穀物等を船から陸揚げするための港湾荷役機械



(株) J-オイルミルズ静岡事業所



穀物の荷揚げ作業



製造された油脂等の製品

清水港湾事務所では、学校、企業、自治会等の皆様を対象に、みなと(清水港、御前崎港、田子の浦港、下田港など)の見学会や、出前教室を実施しています。

詳細は、清水港湾事務所 企画調整課 (TEL 054-352-4148) にお問い合わせ下さい。  
メール ([pa.cbr-shimizukouwan@mlit.go.jp](mailto:pa.cbr-shimizukouwan@mlit.go.jp)) でも受け付けております。

### 海とみなとの相談窓口

 全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと

**0120-497-370**

受付時間：9時30分～12時、13時～17時(土・日、祝祭日は除く)  
携帯電話からもご利用いただけます

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは  
何でもお問い合わせください

### ■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

TEL 054-352-4148

ご意見・ご感想をお寄せ下さい。

[pa.cbr-shimizukouwan@mlit.go.jp](mailto:pa.cbr-shimizukouwan@mlit.go.jp)